

2025年3月期 第1四半期 決算説明資料

2024年8月9日

東京計器株式会社 (証券コード 7721)



発表のポイント

1

2025年3月期 第1四半期

売上高は前年同期比で減収、営業利益は前年同期並み。

売上高	8,693 百万円	前年同期比	▲724 百万円
営業利益	▲479 百万円	前年同期比	+4 百万円

2

2025年3月期 通期見通し

2024年5月10日に公表した業績予想に変更はなく、前期比、増収・増益予想。

売上高	57,300 百万円	前期比	10,134 百万円増
営業利益	3,560 百万円	前期比	792 百万円増
営業利益率	6.2%	前期比	0.3% ポイント増

3

防衛・通信機器事業を中心に、受注残高は過去最高を更新。

2024年3月期末	44,720 百万円	2025年3月期 1Q	50,055 百万円
-----------	-------------------	-------------	-------------------

資料の内容

1. 2025年3月期 第1四半期 決算概要

2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス

<ご参考資料>

- 業績推移
- 事業紹介

売上高・損益

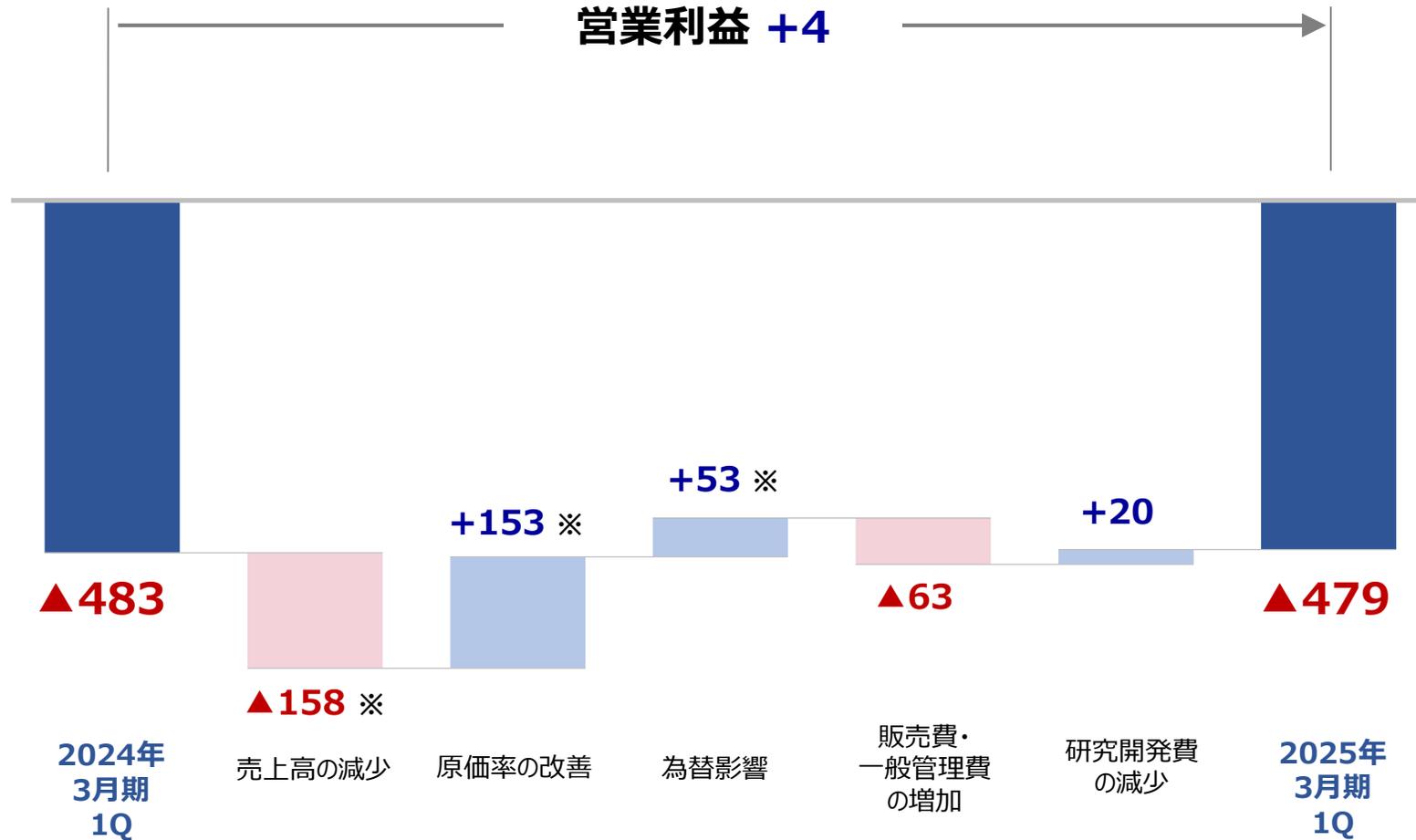
単位：百万円	2024年 3月期 1Q	2025年 3月期 1Q	増減額	増減率
売上高	9,417	8,693	▲724	▲7.7%
営業利益	▲483	▲479	+4	-
経常利益	▲404	▲407	▲3	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲311	▲258	+53	-
為替レート	2024年 3月期 1Q	2025年 3月期 1Q		
(円/USD)	137.50	155.00		

- 売上高は、船舶港湾機器事業が好調の一方、防衛・通信機器事業は第2四半期以降に偏重していることから、前年同期比で減収。
- 営業利益は、製品構成の変化や円安の影響により原価率が好転したこと等から前年同期並み。
- 当期は例年にも増して納入時期が下期に集中しているものの、事業の進捗は計画通り。

営業利益増減

単位：百万円

※推計値



- 原価率の改善
船舶港湾機器事業の保守サービスが好調。
- 為替影響
前年同期137.50円/USD に対し、155.00円/USDで円安に推移。

セグメント別売上高・損益

単位：百万円		2024年3月期1Q	2025年3月期1Q	増減額	増減率
船舶港湾機器	売上高	2,458	3,022	+564	+22.9%
	営業利益	180	400	+220	+122.5%
油空圧機器	売上高	2,644	2,515	▲129	▲4.9%
	営業利益	▲70	▲39	+32	—
流体機器	売上高	597	618	+22	+3.7%
	営業利益	▲132	▲174	▲42	—
防衛・通信機器	売上高	3,208	2,077	▲1,131	▲35.3%
	営業利益	▲329	▲472	▲143	—
その他	売上高	510	460	▲50	▲9.8%
	営業利益	▲111	▲170	▲59	—
合計	売上高	9,417	8,693	▲724	▲7.7%
	営業利益	▲483	▲479	+4	—

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別売上高・損益

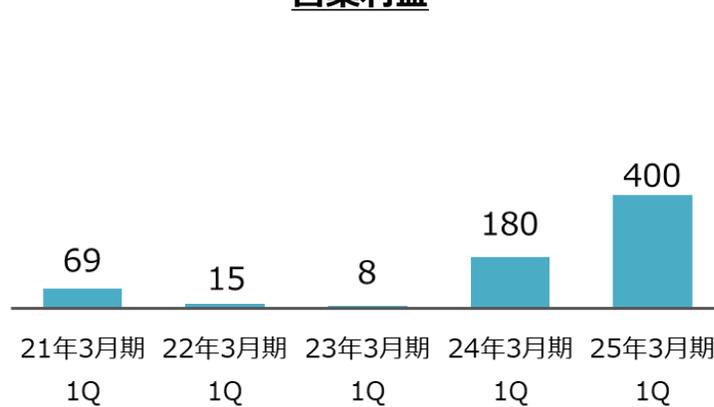
船舶港湾機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益

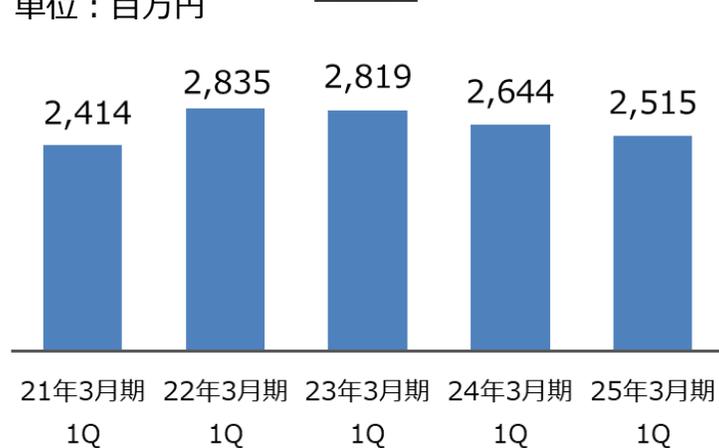


- 商船市場、海外市場及び保守サービスが好調だったことに加え、為替が円安に推移したことから前年同期比で増収・増益。

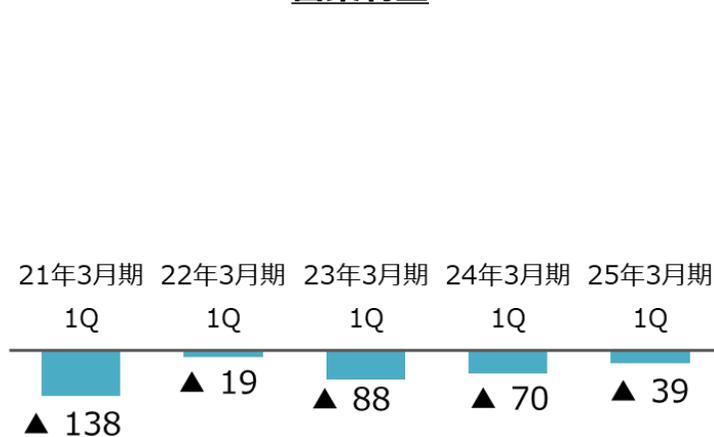
油空圧機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益



- プラスチック加工機械市場、工作機械市場、建設機械市場が低調に推移したことから、前年同期比で減収。
- 売上高減少の影響はあるものの、販売価格の適正化による利益確保等に取り組んだ結果、営業損失は縮小。

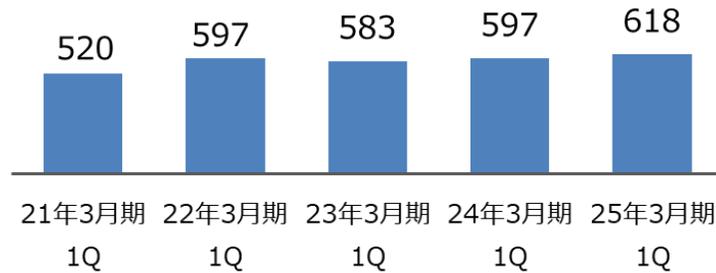
(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別売上高・損益

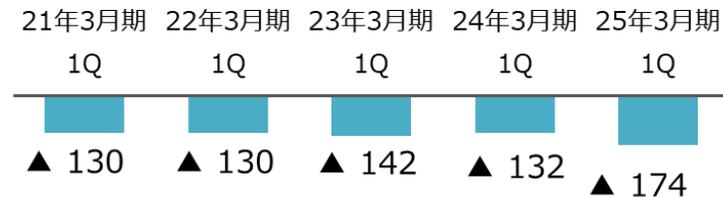
流体機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益

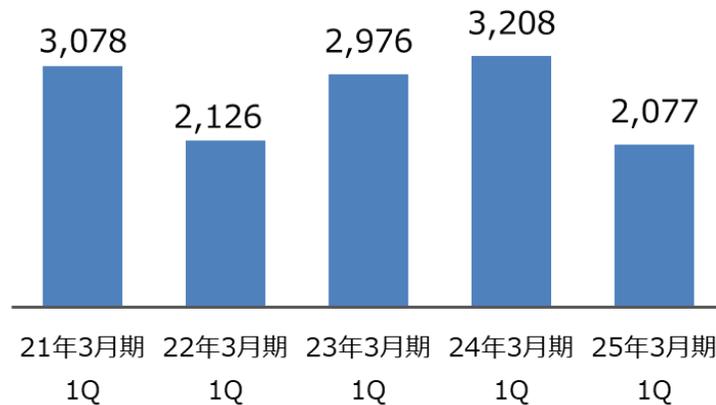


- 官需市場では前年同期にあった農業用水向け大型案件が無かったものの、消火設備市場では立体駐車場案件が好調に推移。この結果、前年同期比で増収。
- 消火設備市場における容器弁点検の減少により原価率が悪化したため、営業損失が拡大。
- 計測機器事業の特性上、販売が第4四半期に集中するため、第1四半期は営業損失となる傾向。

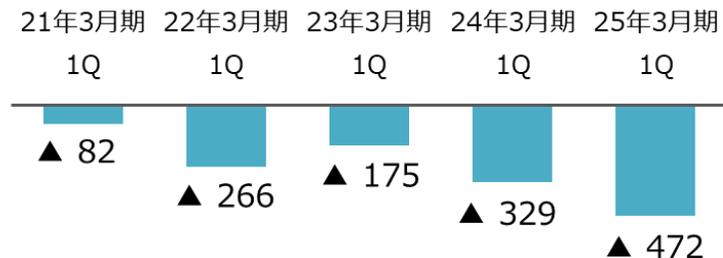
防衛・通信機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益



- 防衛事業において、艦艇搭載機器の納入が第2四半期以降に偏重していることなどにより減少。
- 通信機器事業において、放送局向け機器は堅調に推移したものの、その他の機器は低調に推移。
- この結果、前年同期比で減収・減益。
- 防衛事業の特性上、販売が第4四半期に集中するため、第1四半期は営業損失となる傾向。

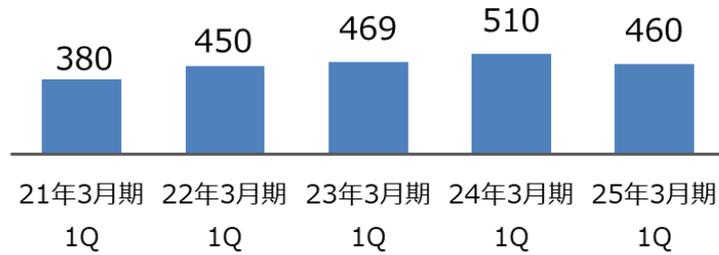
(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別売上高・損益

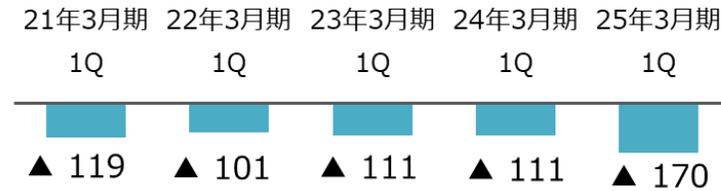
その他

単位：百万円

売上高



営業利益



- 鉄道機器事業は堅調に推移したものの、検査機器事業における販売先での包装材生産縮小の影響を受け、減収・減益。

受注の状況

単位:百万円	受注高				受注残高				概況
	2024年 3月期1Q	2025年 3月期1Q	増減額	増減率	2024年 3月期1Q	2025年 3月期1Q	増減額	増減率	
船舶港湾機器	2,540	3,271	+731	+28.8%	4,246	4,665	+419	+9.9%	海外市場の新造船向けや保守サービスの需要が好調に推移し、受注高・受注残高ともに増加。
油空圧機器	2,918	2,848	▲70	▲2.4%	3,713	3,732	+19	+0.5%	海外市場は堅調に推移したものの、工作機械及び建設機械市場が低調であったため受注高・受注残高ともに前期並み。
流体機器	1,243	1,413	+170	+13.7%	2,239	2,315	+76	+3.4%	官需市場及び消火設備市場が好調であったため、受注高・受注残高ともに増加。
防衛・通信機器	4,449	5,522	+1,072	+24.1%	23,510	37,096	+13,585	+57.8%	防衛予算の増加を背景に、第1四半期の受注高、受注残高ともに過去最高値を更新。
その他	1,405	964	▲441	▲31.4%	2,377	2,247	▲129	▲5.4%	鉄道機器事業における探傷車受注は下期以降に予定しているため、受注高が減少。
合計	12,555	14,018	+1,462	+11.6%	36,085	50,055	+13,970	+38.7%	受注残高は過去最高を更新。

貸借対照表

単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期1Q	増減
資産の部			
流動資産	50,863	53,036	+2,173
固定資産	16,115	16,684	+569
資産合計	66,978	69,719	+2,742
負債の部			
流動負債	21,781	21,954	+173
固定負債	7,828	11,097	+3,268
負債合計	29,609	33,050	+3,441
純資産の部			
株主資本	32,901	32,113	▲789
その他の包括利益累計額	3,948	4,066	+118
純資産合計	37,369	36,669	▲700
負債純資産合計	66,978	69,719	+2,742

- 流動資産
現金及び預金が1,641百万円増加。
売上債権が4,813百万円減少。
主に防衛事業の受注増に伴う仕入れの増加により棚卸資産が4,643百万円増加。
- 固定資産
成長投資、老朽化設備の更新等により有形固定資産が307百万円増加。
また、株価の上昇に伴い、投資その他の資産が266百万円増加。
- 固定負債
大幅な受注増に対応するため借入を実施し、長期借入金が3,261百万円増加。
- 自己資本比率は51.9%。
引き続き財務健全性を維持。

資料の内容

1. 2025年3月期 第1四半期 決算概要
- 2. 2025年3月期 通期見通し**
3. トピックス

<ご参考資料>

- 業績推移
- 事業紹介

外部環境リスクの状況

	発生事象	対象事業	対応	影響度
材料価格上昇	<ul style="list-style-type: none"> 国内人件費増加による材料費への影響。 電子部品等の値上がりによる材料費への影響。 世界的インフレによる仕入れ価格への影響。 	✓ 全事業	<ul style="list-style-type: none"> 顧客と販売価格の適正化交渉を継続。 調達コストの低減。 	高
	<ul style="list-style-type: none"> 客先予算の圧迫による契約案件の先延ばし。 	✓ 流体	<ul style="list-style-type: none"> 契約案件のモニタリングを強化し、他案件での挽回。 	中
為替	<ul style="list-style-type: none"> 為替変動が不透明。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 船舶港湾 (+) ✓ 油空圧 (-) ※円安に振れた場合 	<ul style="list-style-type: none"> 140円/USDにて計画。 購入部品の値上りに警戒。 	中
中国経済	<ul style="list-style-type: none"> 経済減速による販売への影響。 米中対立による輸出入規制等の影響。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 船舶港湾 ✓ 油空圧 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、先行手配や代替品への切り替えを行う予定。 高付加価値製品の拡販。 他地域での拡販。 	中

2025年3月期 業績予想

単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	47,166	57,300	+10,134	+21.5%
営業利益	2,768	3,560	+792	+28.6%
経常利益	2,990	3,780	+790	+26.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,277	2,850	+573	+25.2%
売上高営業利益率	5.9%	6.2%	+0.3%pt	
為替レート (対USD)	144.32円	140.00円		

対USD為替感応度（1円円安変動/2025年3月期2Q以降）：営業利益 約+8百万円

- 事業の進捗は計画通り順調。そのため、2024年5月10日に公表した業績予想に変更はなく、前期比、増収・増益の見込み。

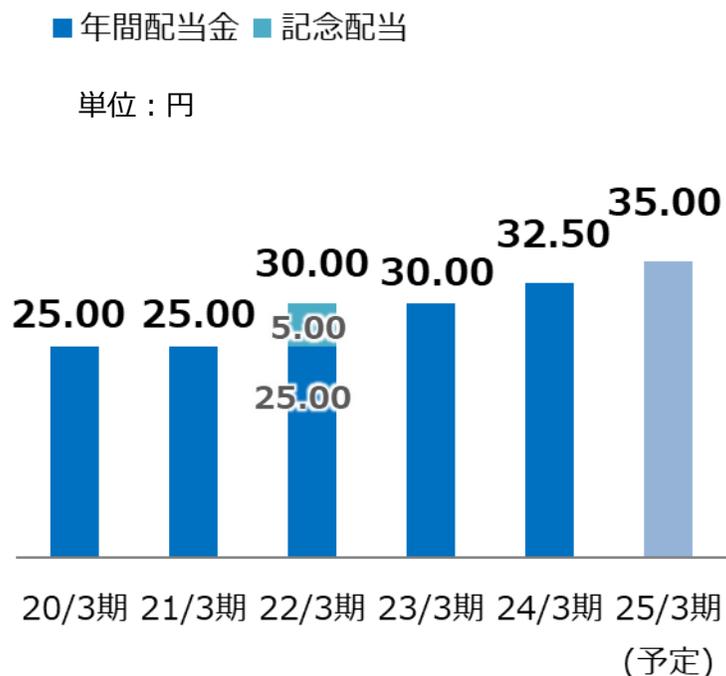
セグメント別業績予想

単位：百万円		2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率	見通し
船舶港湾機器	売上高	11,016	11,400	+384	+3.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東アジアの新造船需要や保守サービスが引き続き堅調に推移する見込み。 ■ 自動運航船の実現に向けた研究開発等を継続実施。
	営業利益	1,006	810	▲196	▲19.5%	
油空圧機器	売上高	11,675	11,500	▲175	▲1.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ プラスチック加工機械市場は、自動車設備関連の大型機を中心に需要回復を見込む。工作機械市場は、中国の景気停滞に伴う在庫調整が継続。 ■ 建設機械市場は、特装車の需要回復に期待。 ■ 国内外の販売価格の適正化と生産性向上への取り組みを継続。
	営業利益	273	360	+87	+31.9%	
流体機器	売上高	4,772	4,900	+128	+2.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 官需市場は、堅調に推移。 ■ 消火設備市場は、容器弁点検需要のピークアウトの見込み。
	営業利益	733	610	▲123	▲16.8%	
防衛・ 通信機器	売上高	16,185	25,100	+8,915	+55.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防衛事業は、防衛予算増加を背景に防衛機器の受注が引き続き好調に推移する見込み。売上は計画どおり下期に偏重。 ■ 予定した設備投資や人材獲得を着実に進め、過去最高の受注残高を売上に繋げていく。
	営業利益	362	1,350	+988	+272.9%	
その他	売上高	3,517	4,400	+883	+25.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検査機器事業は、設備の老朽化更新に期待。 ■ 鉄道機器事業は、計画どおり主力の超音波レール探傷車を第4四半期に販売予定。
	営業利益	502	540	+38	+7.6%	
合計	売上高	47,166	57,300	+10,134	+21.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ セグメント別の売上高、営業利益予想も、期初予想通りとする。
	営業利益	2,768	3,560	+792	+28.6%	

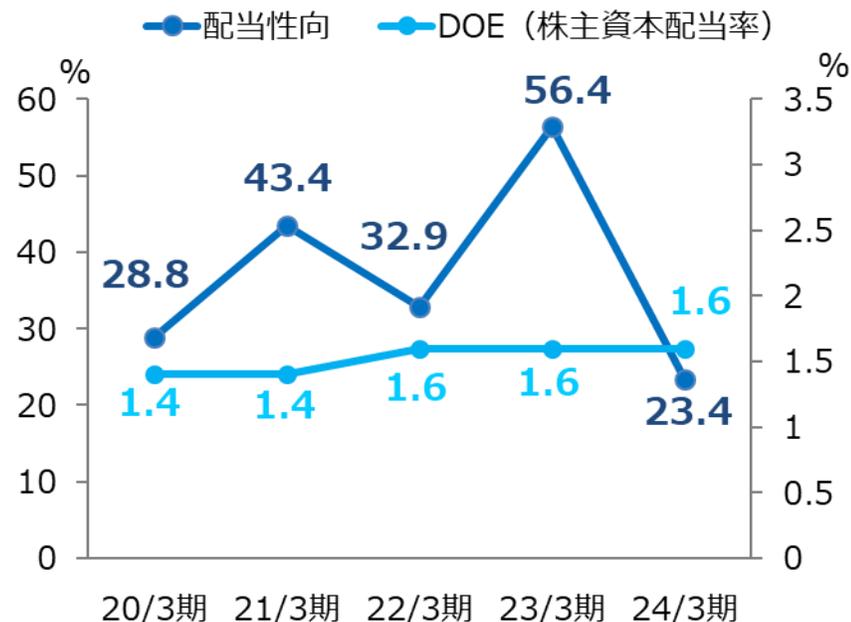
(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

株主還元

配当金の推移



配当性向とDOEの推移



配当基本方針

- 「東京計器ビジョン2030」の実現による企業価値向上に向け、成長投資を最優先としつつ、財務基盤とのバランスを考慮しながら、最適資本構成を意識した最適な株主還元施策を実施する。
- 毎期の配当については、過去の配当実績も勘案し、安定的かつ継続的な株主還元を努める。

配当金

当期

35.00円

※2000年度以降の過去最高を2期連続更新

株主優待

- 対象となる株主様の保有株式数に応じてポイントを贈呈。
- ポイントを株主様限定の特設ウェブサイト「東京計器プレミアム優待倶楽部」において、お好みの商品と交換。
- 詳細は株主様限定ウェブサイトでご確認ください。
<https://tokyokeiki.premium-yutaiclub.jp/>

資料の内容

1. 2025年3月期 第1四半期 決算概要
2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス

<ご参考資料>

- 業績推移
- 事業紹介

1. TV東京系列「知られざるガリバー」で当社が紹介されました

テレビ東京系列の「知られざるガリバー～エクセレントカンパニーファイル～」において、7月13日（土）の放送回で当社が紹介されました。同番組は、知る人ぞ知る、各業界の中で存在感を示す企業にスポットを当てた経済ドキュメンタリー番組です。

番組では、当社の多様な事業・製品のうち、独創的な技術である「ジャイロ技術」、「マイクロ波応用技術」の解説を交え、事業規模が大きい「船舶港湾機器事業」、「防衛・通信機器事業」を中心に上げていただきました。本社のほか、それぞれの生産拠点である矢板・那須工場の取材もあり、普段はご紹介する機会のない製造現場の様子も番組に盛り込んでいただきました。



本社取材の様子



矢板工場：ジャイロコンパスの性能テスト



那須工場：マイクロ波デバイスの製造

当社製品の第三者による評価として、オーシャントランス株式会社様、海上保安庁第三管区海上保安本部様に撮影のご協力をいただき、実際に製品を使っている現場も放映されました。



東京湾の海上にあるサービスエリア「海ほたる」に設置された海上監視レーダー



当社の船舶通航業務システムが入る海上保安庁の東京湾海上交通センター



オーシャントランス様のフェリー「びざん」に搭載されている当社のオートパイロット

2. 「ものづくりワールド東京」出展 画像検査に用いるエッジAIシステムをデモ展示

計測器、検査機、センサなどが展示される“ものづくりワールド東京”が、6月19～21日にかけて東京ビッグサイトで開催され、当社は、画像AI検査システムの構築環境などを展示しました。10月2～4日にかけてインテックス大阪で開催予定の「ものづくりワールド大阪」にも出展いたします。こうした展示会等を通じて知名度をあげ、パートナー企業を増やしてエッジAIの早期事業化を目指しています。

画像AI検査システム

ソフトウェアとしてAI学習に必要な画像収集ツール、AIモデルを簡単に作成可能なAI学習ツール、AI画像検査アプリケーションのテンプレートを提供。エッジAI画像検査システムでAI画像検査に必要なハードとソフトが全て揃います。



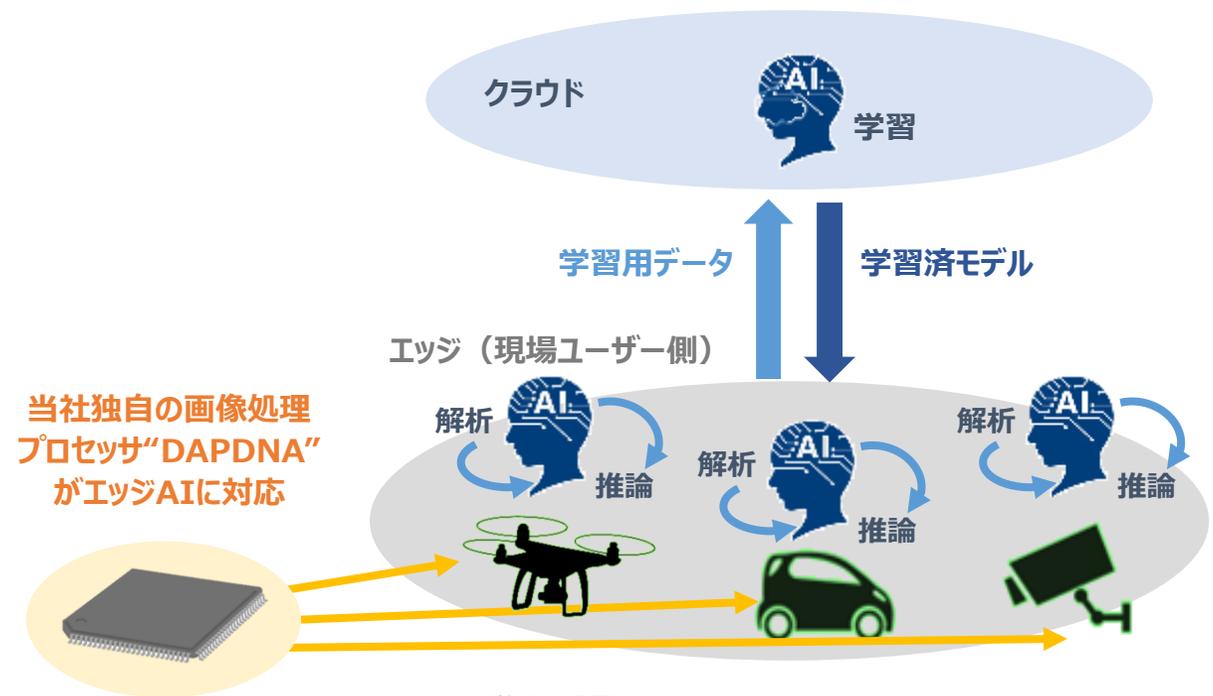
展示会の様子



エッジAI処理

一般的なAI処理では大容量の画像データをクラウドに上げる必要がありますが、エッジAI処理ではエッジ＝現場ユーザー側で個々に処理するため、ネットワークへの負荷が小さくなり、推論結果を得るまでのリアルタイム性やデータのセキュリティが担保されます。最近のAI処理は、クラウドからエッジへ移行しつつあります。

クラウドとエッジで処理を分担



3. 宇宙産業共同イベント「つくば×宇都宮」に参加

5月22日、東京・有楽町で開催された宇宙産業共同イベント「つくば×宇都宮 地方からの宇宙への挑戦」で、当社執行役員宮地が講演しました。本イベントは、栃木県宇都宮市と株式会社つくば研究支援センターが主催となり、加速度的な成長が見込まれる「宇宙産業分野」での企業、大学、研究機関等の最新の取り組みや研究の紹介を通して、宇都宮市、茨城県つくば市の両市・両県における宇宙産業の成長を促そうとする目的で開催されました。当社は、宇宙関連製品を当社那須工場で生産していることから本イベントに参加しました。

講演会

講演では、当社の宇宙関連事業が1986年に打ち上げられたH-I/H-II ロケット用の油圧ポンプ開発から始まったことや、最近のスタートアップとの提携について触れ、航空・宇宙関連向け精密機器メーカーとして安全な社会の実現に貢献していくことを説明しました。



最近の当社宇宙事業の取り組み

2020年度

小型SAR衛星に当社のマイクロ波増幅器が搭載
小型SAR衛星の開発・運用と衛星データ解析によるソリューションを提供する株式会社SynspectiveのSAR衛星向けにマイクロ波増幅器を納入。



Synspective社の小型SAR衛星
StriX-a (ストリクス・アルファ)



マイクロ波増幅器

2021年度

「東京計器ビジョン2030」の中で成長ドライバーの一つとして宇宙事業を選定。

Synspective社と協業

小型SAR衛星の量産工場としてパートナー選定を受け、小型衛星の組立事業に参入。2023年度には、那須工場の敷地内に衛星組立用の宇宙棟が完成。



那須工場 宇宙棟

2022年度

2023年度

株式会社Pale Blue社と協業

Pale Blue社が開発する、安全無毒である「水」を推進剤とした小型衛星用推進機の量産組立における協業を開始。



Pale Blue社の水推進機

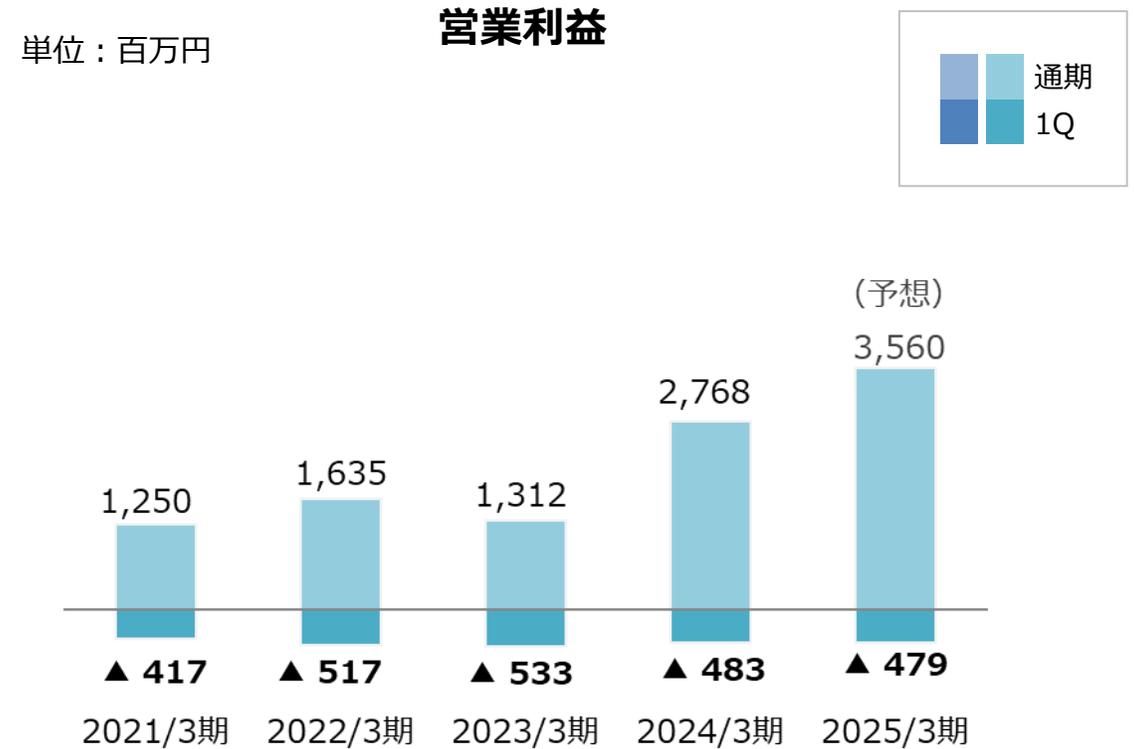
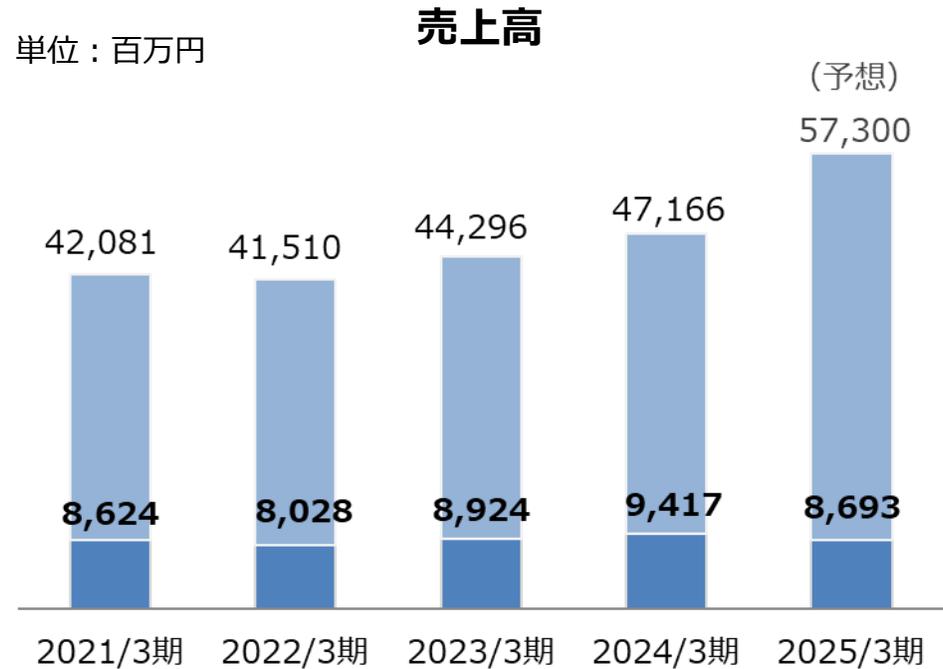
資料の内容

1. 2025年3月期 第1四半期 決算概要
2. 2025年3月期 通期見通し
3. トピックス

<ご参考資料>

- **業績推移**
- 事業紹介

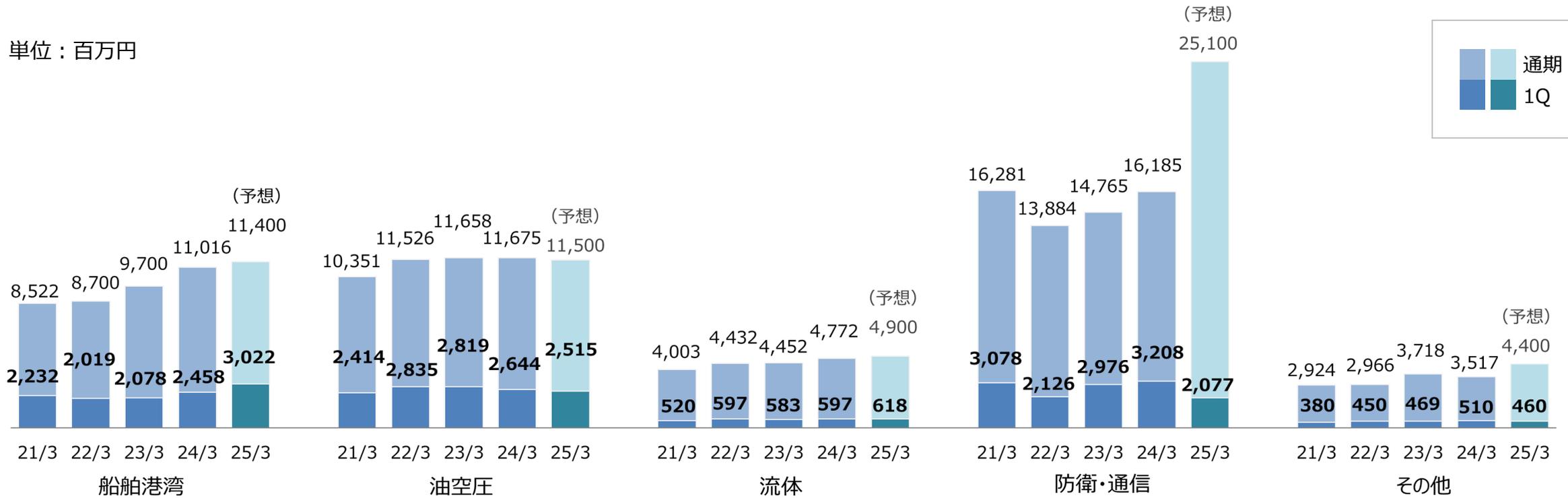
第1四半期 売上高・営業利益推移



単位：百万円	2021年3月期 1Q	2022年3月期 1Q	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減率)
売上高	8,624	8,028	8,924	9,417	8,693	▲724	▲7.7%
営業利益	▲417	▲517	▲533	▲483	▲479	+4	-
経常利益	▲338	▲404	▲372	▲404	▲407	▲3	-
当期純利益	▲216	▲250	▲242	▲311	▲258	+53	-

セグメント別 第1四半期売上高推移

単位：百万円

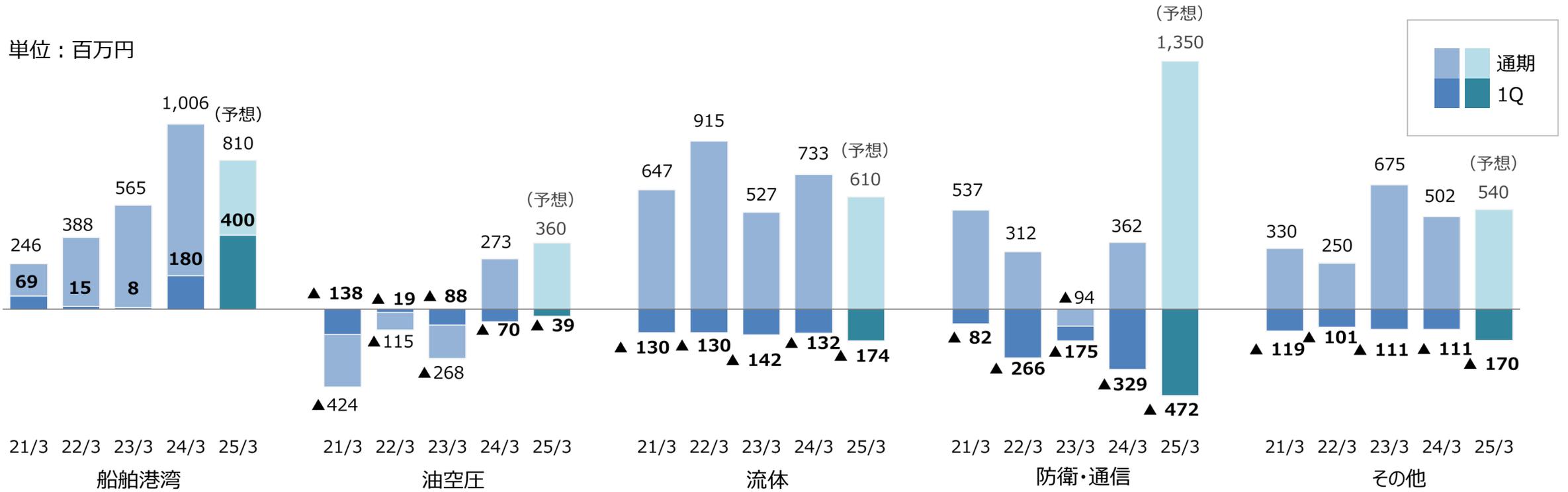


(単位：百万円)	2021年3月期 1Q	2022年3月期 1Q	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減率)
船舶港湾	2,232	2,019	2,078	2,458	3,022	+564	+22.9%
油空圧	2,414	2,835	2,819	2,644	2,515	▲129	▲4.9%
流体	520	597	583	597	618	+22	+3.7%
防衛・通信	3,078	2,126	2,976	3,208	2,077	▲1,131	▲35.3%
その他	380	450	469	510	460	▲50	▲9.8%

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別 第1四半期営業利益推移

単位：百万円

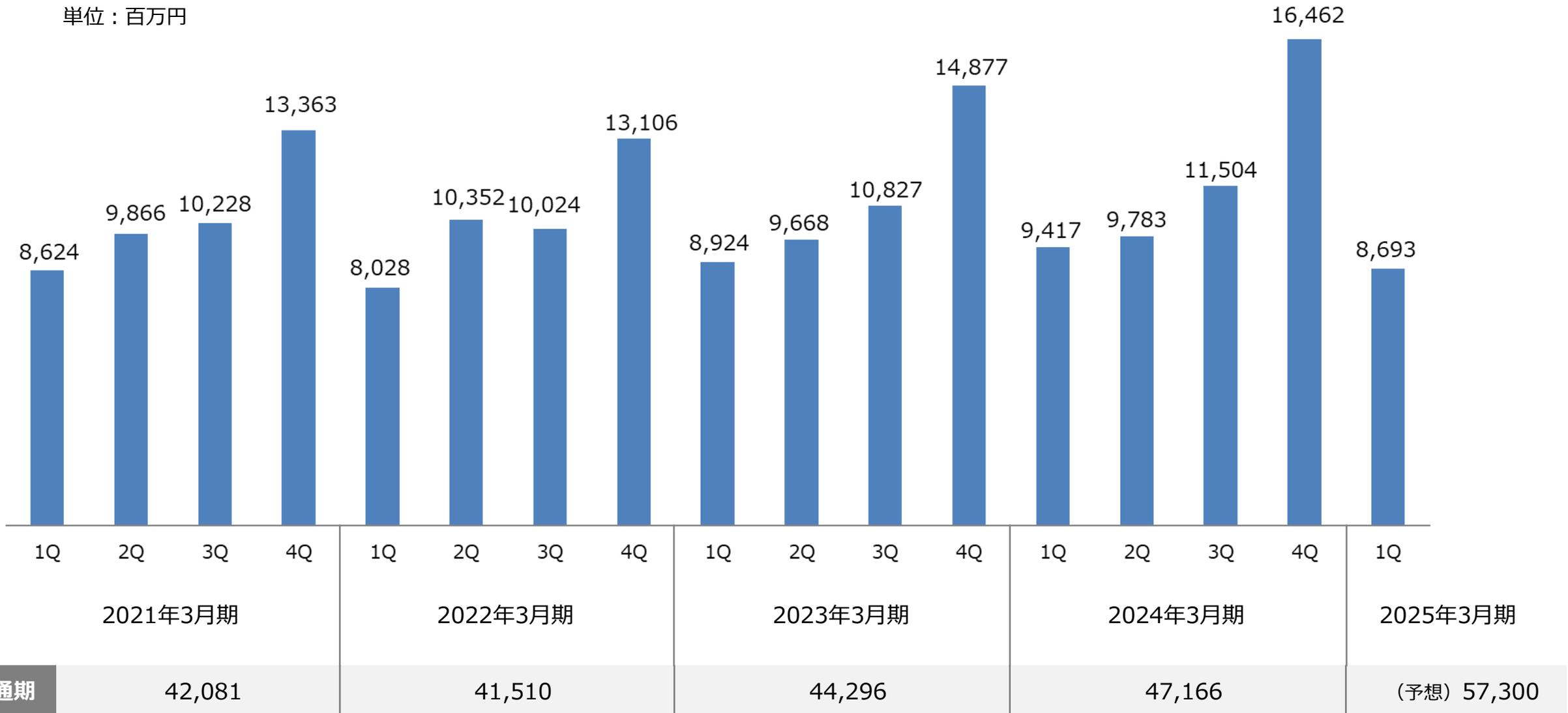


(単位：百万円)	2021年3月期 1Q	2022年3月期 1Q	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減率)
船舶港湾	69	15	8	180	400	+220	+122.5%
油空圧	▲138	▲19	▲88	▲70	▲39	+32	—
流体	▲130	▲130	▲142	▲132	▲174	▲42	—
防衛・通信	▲82	▲266	▲175	▲329	▲472	▲143	—
その他	▲119	▲101	▲111	▲111	▲170	▲59	—

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

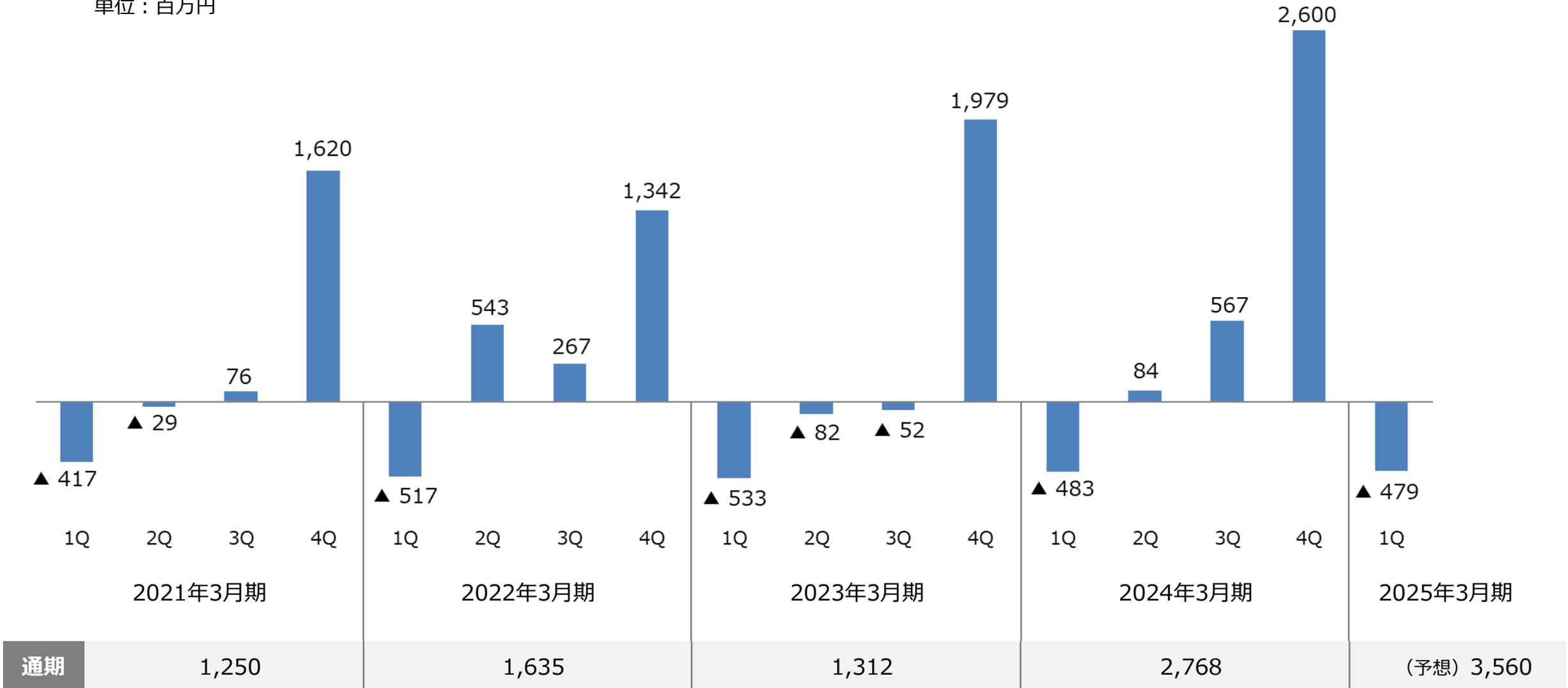
四半期 売上高推移

単位：百万円



四半期 営業利益推移

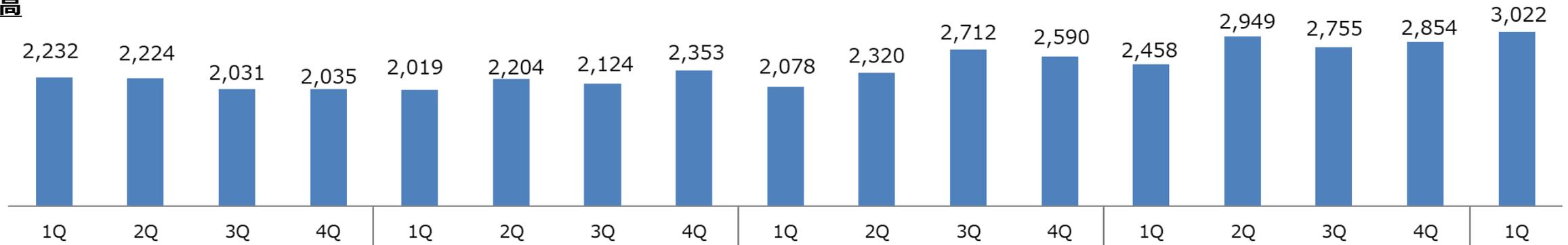
単位：百万円



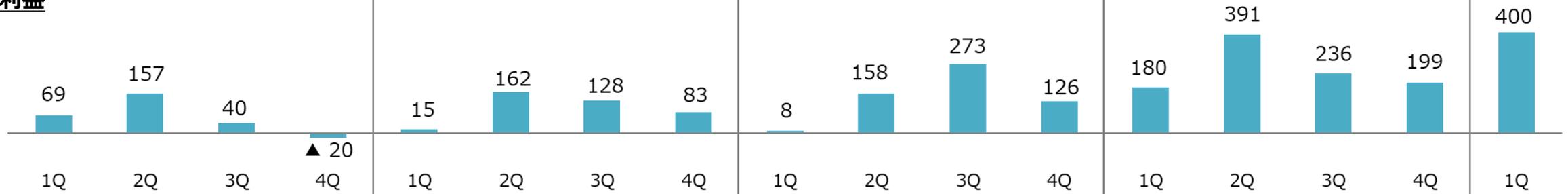
セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：船舶港湾

単位：百万円

売上高



営業利益

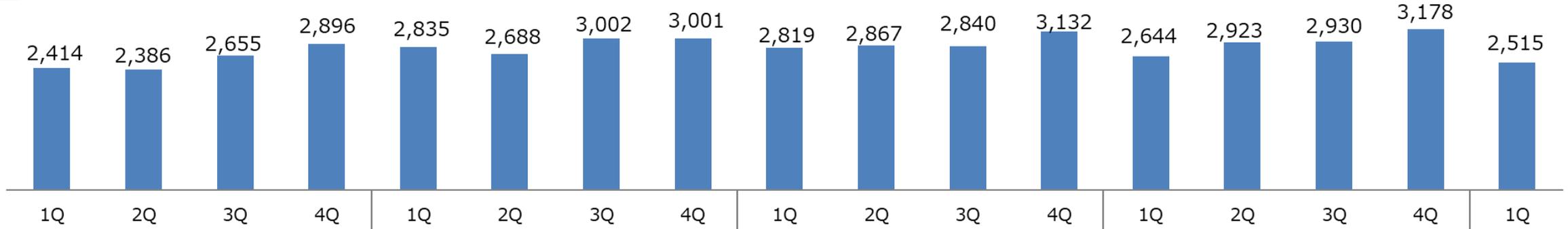


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	2,232	69	2,019	15	2,078	8	2,458	180	3,022	400
2Q	2,224	157	2,204	162	2,320	158	2,949	391		
3Q	2,031	40	2,124	128	2,712	273	2,755	236		
4Q	2,035	▲20	2,353	83	2,590	126	2,854	199		
通期	8,522	246	8,700	388	9,700	565	11,016	1,006	(予想) 11,400	(予想) 810

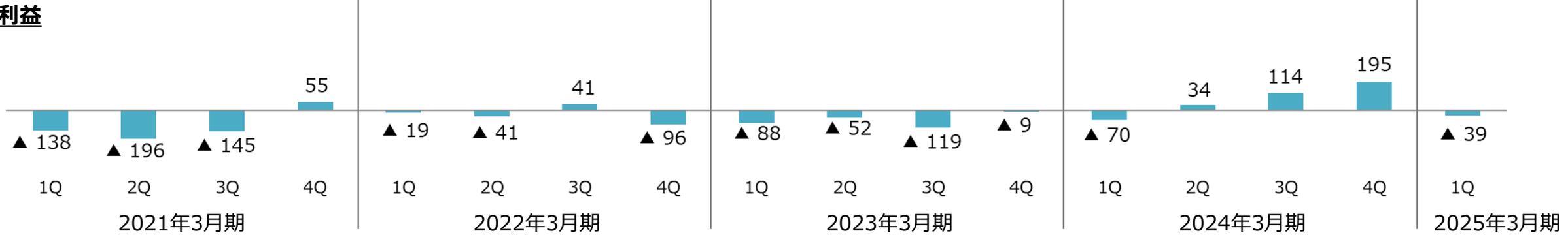
セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：油空圧

単位：百万円

売上高



営業利益

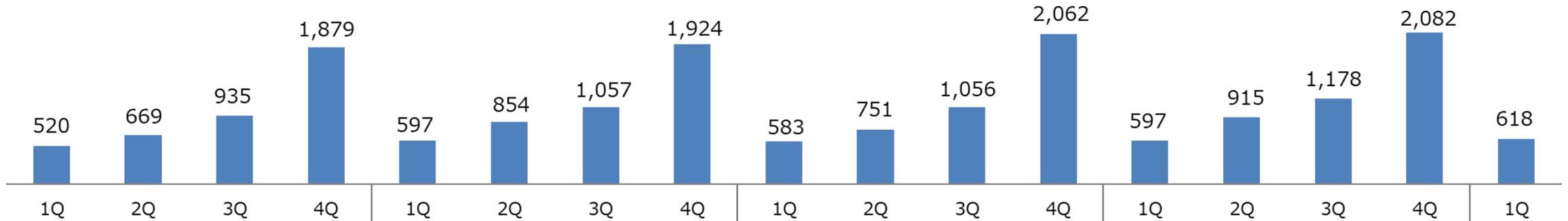


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	2,414	▲138	2,835	▲19	2,819	▲88	2,644	▲70	2,515	▲39
2Q	2,386	▲196	2,688	▲41	2,867	▲52	2,923	34		
3Q	2,655	▲145	3,002	41	2,840	▲119	2,930	114		
4Q	2,896	55	3,001	▲96	3,132	▲9	3,178	195		
通期	10,351	▲424	11,526	▲115	11,658	▲268	11,675	273	(予想) 11,500	(予想) 360

セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：流体

単位：百万円

売上高



営業利益

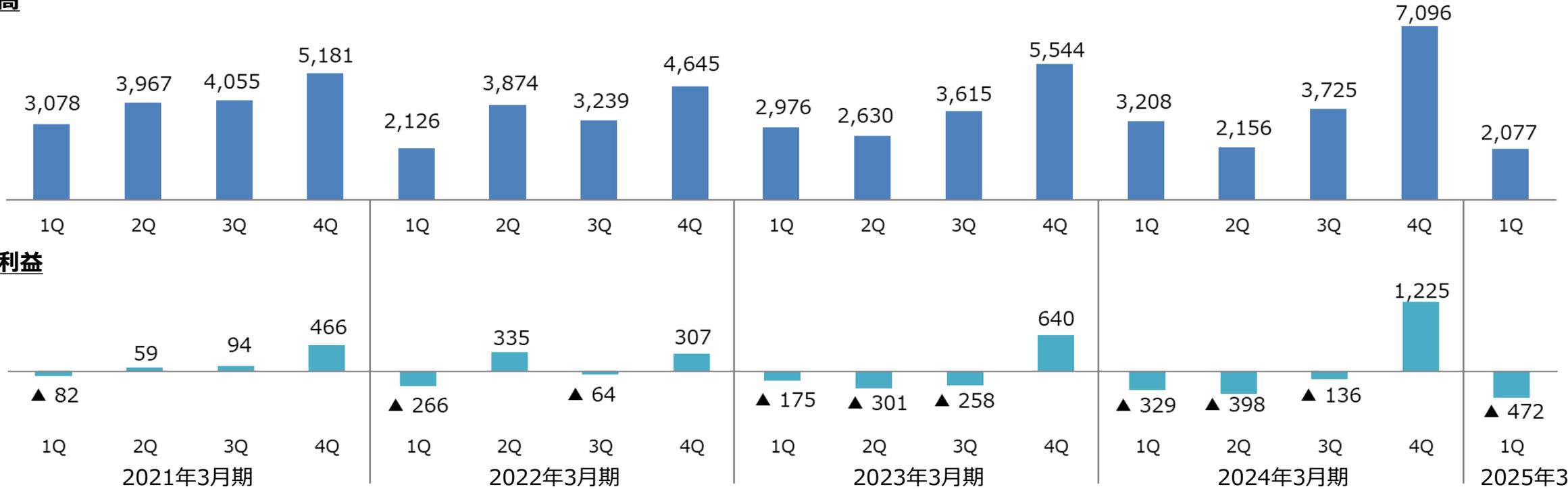


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	520	▲130	597	▲130	583	▲142	597	▲132	618	▲174
2Q	669	▲46	854	52	751	▲29	915	8		
3Q	935	117	1,057	209	1,056	110	1,178	186		
4Q	1,879	706	1,924	784	2,062	588	2,082	671		
通期	4,003	647	4,432	915	4,452	527	4,772	733	(予想) 4,900	(予想) 610

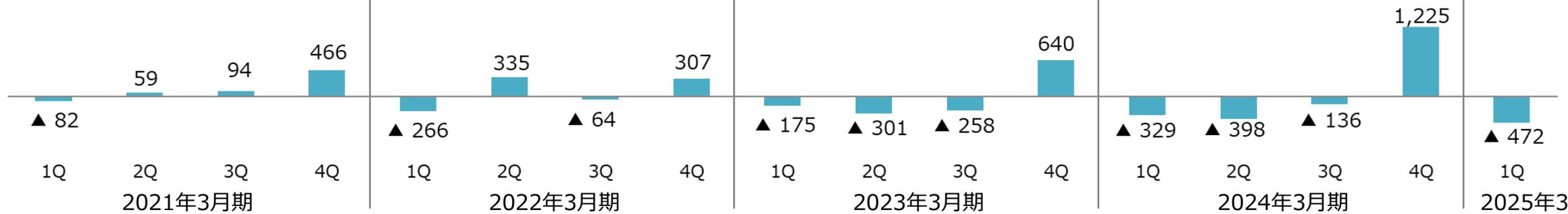
セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：防衛・通信

単位：百万円

売上高



営業利益

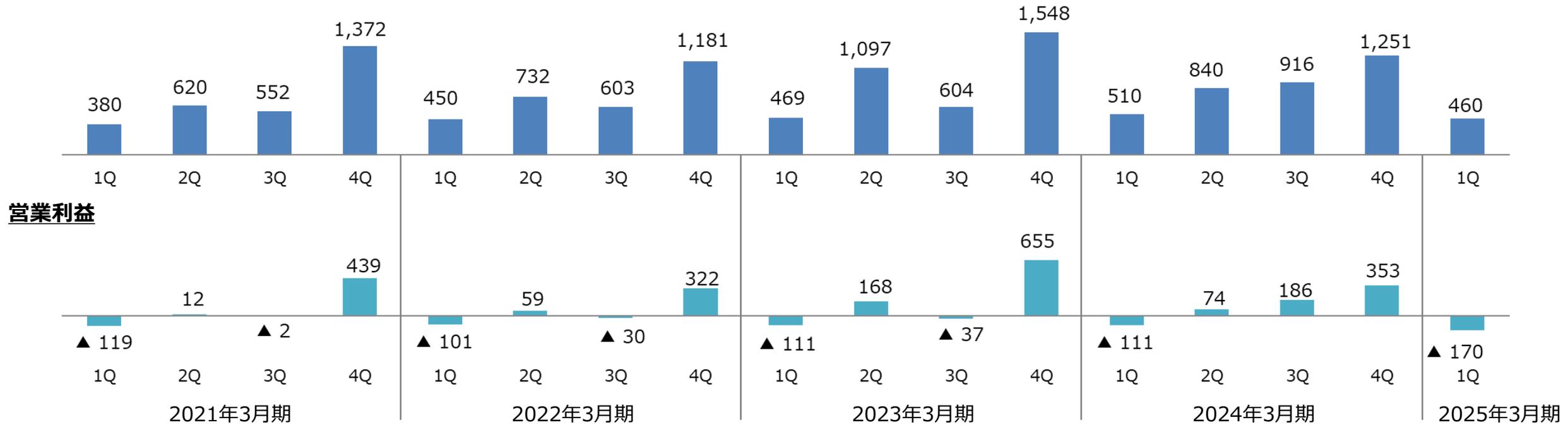


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	3,078	▲82	2,126	▲266	2,976	▲175	3,208	▲329	2,077	▲472
2Q	3,967	59	3,874	335	2,630	▲301	2,156	▲398		
3Q	4,055	94	3,239	▲64	3,615	▲258	3,725	▲136		
4Q	5,181	466	4,645	307	5,544	640	7,096	1,225		
通期	16,281	537	13,884	312	14,765	▲94	16,185	362	(予想) 25,100	(予想) 1,350

セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：その他

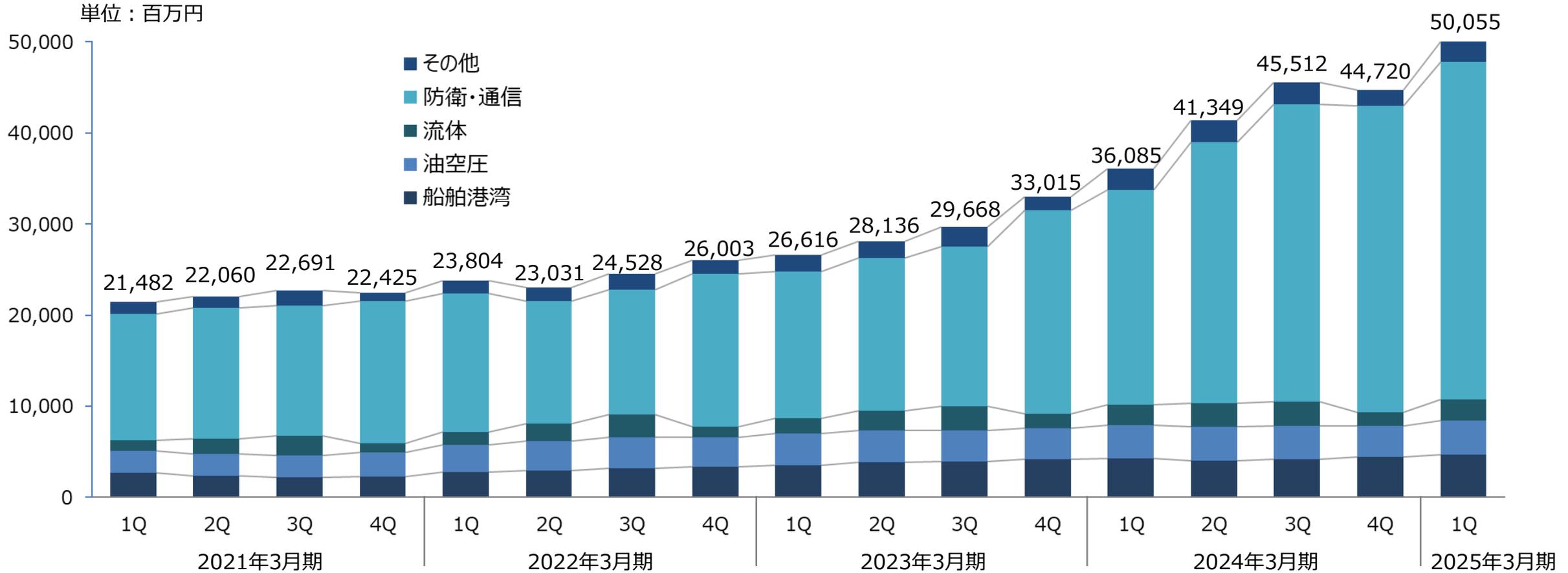
単位：百万円

売上高



	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	380	▲119	450	▲101	469	▲111	510	▲111	460	▲170
2Q	620	12	732	59	1,097	168	840	74		
3Q	552	▲2	603	▲30	604	▲37	916	186		
4Q	1,372	439	1,181	322	1,548	655	1,251	353		
通期	2,924	330	2,966	250	3,718	675	3,517	502	(予想) 4,400	(予想) 540

四半期 受注残高推移

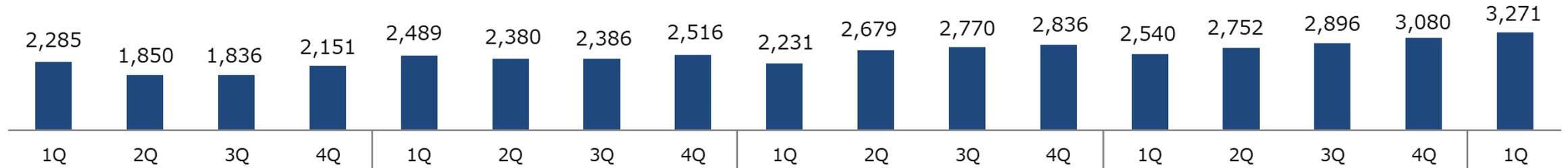


	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
1Q	21,482	23,804	26,616	36,085	50,055
2Q	22,060	23,031	28,136	41,349	
3Q	22,691	24,528	29,668	45,512	
4Q	22,425	26,003	33,015	44,720	

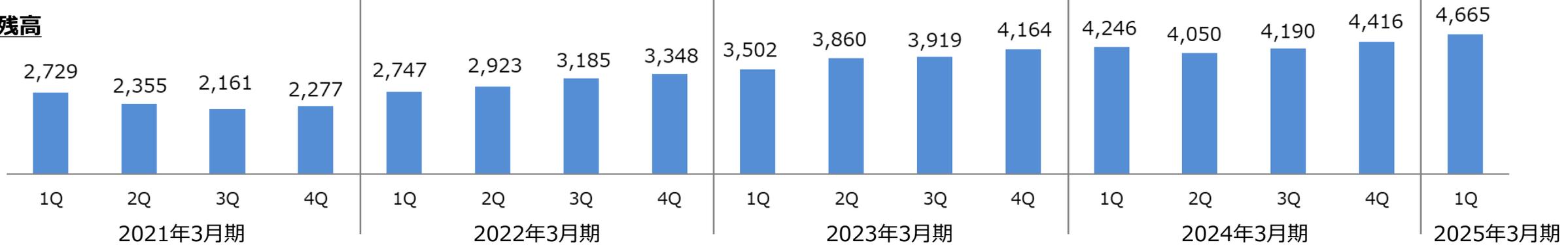
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：船舶港湾

単位：百万円

受注高



受注残高

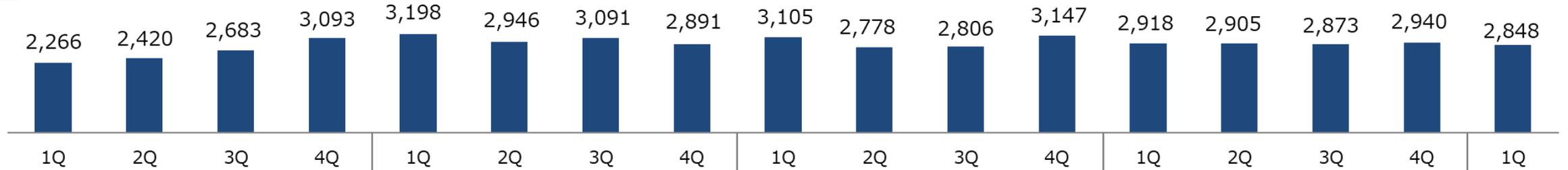


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	2,285	2,729	2,489	2,747	2,231	3,502	2,540	4,246	3,271	4,665
2Q	1,850	2,355	2,380	2,923	2,679	3,860	2,752	4,050		
3Q	1,836	2,161	2,386	3,185	2,770	3,919	2,896	4,190		
4Q	2,151	2,277	2,516	3,348	2,836	4,164	3,080	4,416		
通期	8,123	2,277	9,772	3,348	10,516	4,164	11,268	4,416		

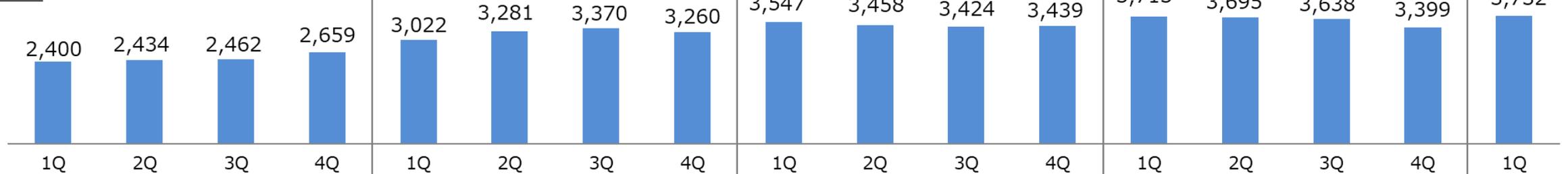
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：油空圧

単位：百万円

受注高



受注残高



2021年3月期

2022年3月期

2023年3月期

2024年3月期

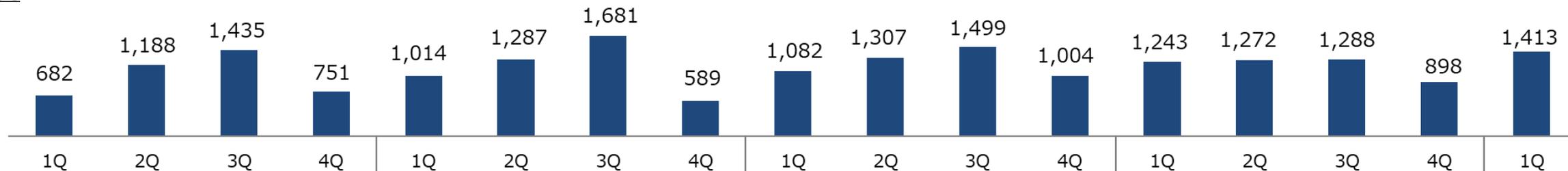
2025年3月期

	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	2,266	2,400	3,198	3,022	3,105	3,547	2,918	3,713	2,848	3,732
2Q	2,420	2,434	2,946	3,281	2,778	3,458	2,905	3,695		
3Q	2,683	2,462	3,091	3,370	2,806	3,424	2,873	3,638		
4Q	3,093	2,659	2,891	3,260	3,147	3,439	2,940	3,399		
通期	10,463	2,659	12,126	3,260	11,836	3,439	11,635	3,399		

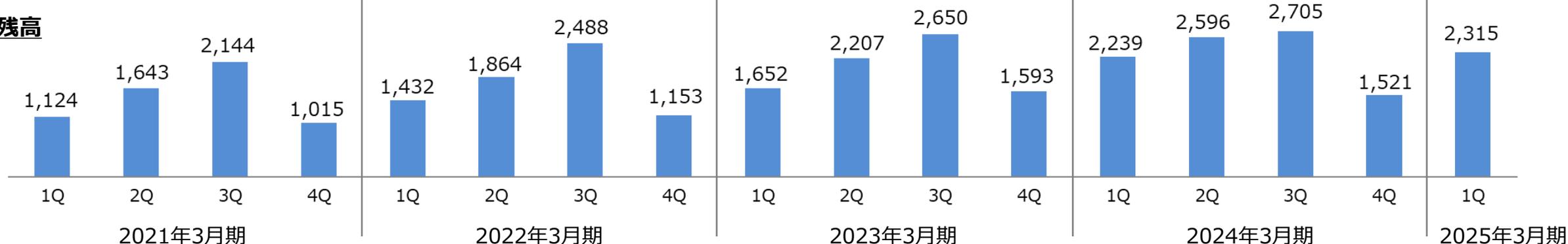
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：流体

単位：百万円

受注高



受注残高

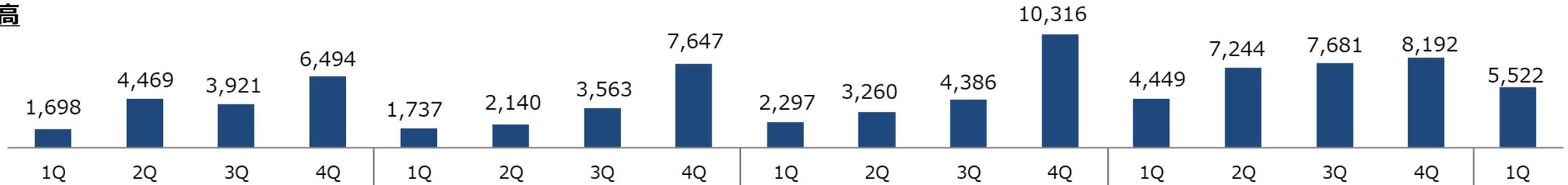


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	682	1,124	1,014	1,432	1,082	1,652	1,243	2,239	1,413	2,315
2Q	1,188	1,643	1,287	1,864	1,307	2,207	1,272	2,596		
3Q	1,435	2,144	1,681	2,488	1,499	2,650	1,288	2,705		
4Q	751	1,015	589	1,153	1,004	1,593	898	1,521		
通期	4,055	1,015	4,571	1,153	4,892	1,593	4,700	1,521		

セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：防衛・通信

単位：百万円

受注高



受注残高

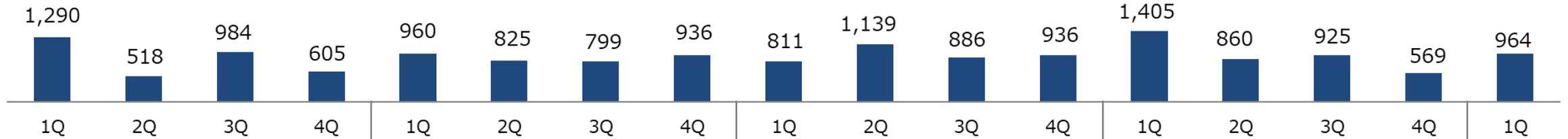


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	1,698	13,888	1,737	15,182	2,297	16,096	4,449	23,510	5,522	37,096
2Q	4,469	14,389	2,140	13,448	3,260	16,726	7,244	28,598		
3Q	3,921	14,256	3,563	13,773	4,386	17,497	7,681	32,555		
4Q	6,494	15,571	7,647	16,775	10,316	22,269	8,192	33,651		
通期	16,582	15,571	15,088	16,775	20,259	22,269	27,566	33,651		

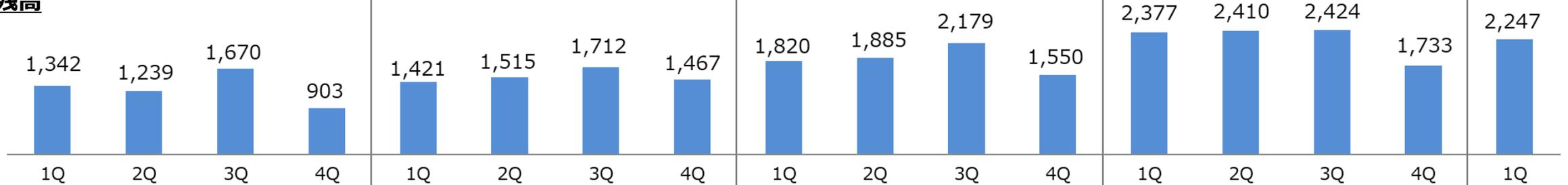
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：その他

単位：百万円

受注高



受注残高



2021年3月期

2022年3月期

2023年3月期

2024年3月期

2025年3月期

	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	1,290	1,342	960	1,421	811	1,820	1,405	2,377	964	2,247
2Q	518	1,239	825	1,515	1,139	1,885	860	2,410		
3Q	984	1,670	799	1,712	886	2,179	925	2,424		
4Q	605	903	936	1,467	936	1,550	569	1,733		
通期	3,398	903	3,520	1,467	3,771	1,550	3,759	1,733		

セグメント別 四半期 受注残高推移 一覧表

単位：百万円		2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
船舶港湾	1Q	2,729	2,747	3,502	4,246	4,665
	2Q	2,355	2,923	3,860	4,050	
	3Q	2,161	3,185	3,919	4,190	
	4Q	2,277	3,348	4,164	4,416	
油空圧	1Q	2,400	3,022	3,547	3,713	3,732
	2Q	2,434	3,281	3,458	3,695	
	3Q	2,462	3,370	3,424	3,638	
	4Q	2,659	3,260	3,439	3,399	
流体	1Q	1,124	1,432	1,652	2,239	2,315
	2Q	1,643	1,864	2,207	2,596	
	3Q	2,144	2,488	2,650	2,705	
	4Q	1,015	1,153	1,593	1,521	
防衛・通信	1Q	13,888	15,182	16,096	23,510	37,096
	2Q	14,389	13,448	16,726	28,598	
	3Q	14,256	13,773	17,497	32,555	
	4Q	15,571	16,775	22,269	33,651	
その他	1Q	1,342	1,421	1,820	2,377	2,247
	2Q	1,239	1,515	1,885	2,410	
	3Q	1,670	1,712	2,179	2,424	
	4Q	903	1,467	1,550	1,733	

資料の内容

1. 2025年3月期 第1四半期 決算概要
2. 2025年3月期 通期見通し
3. トピックス

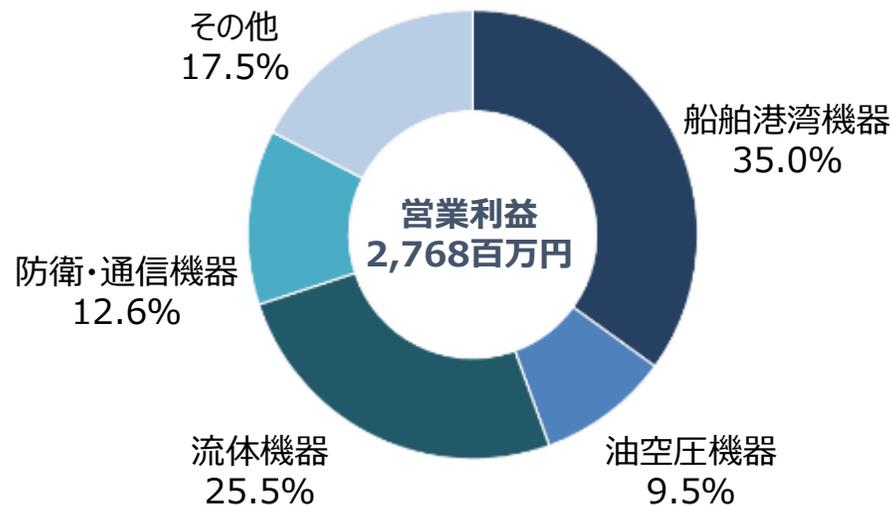
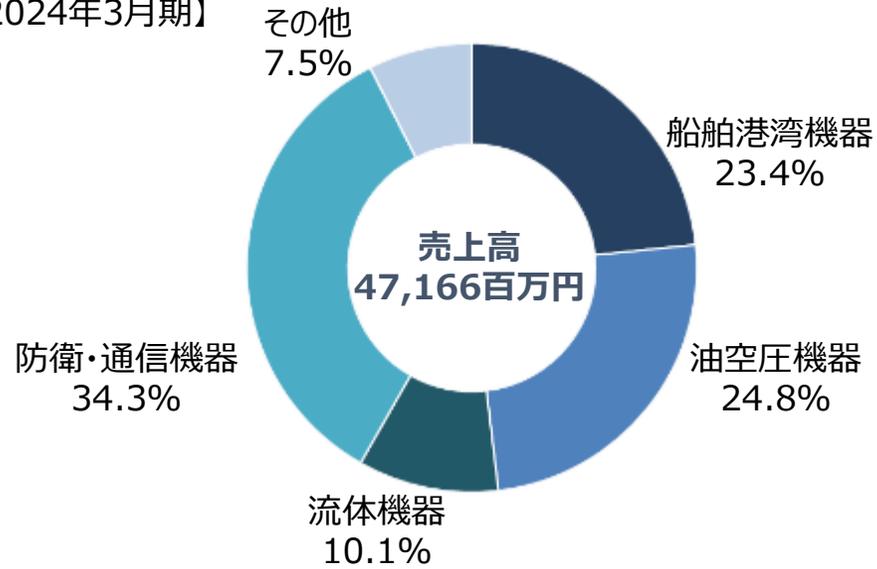
<ご参考資料>

- 業績推移
- **事業紹介**

東京計器グループの主要事業紹介

東京計器グループの事業は4つのセグメント及びその他事業に分かれ、その中に11の事業があります。

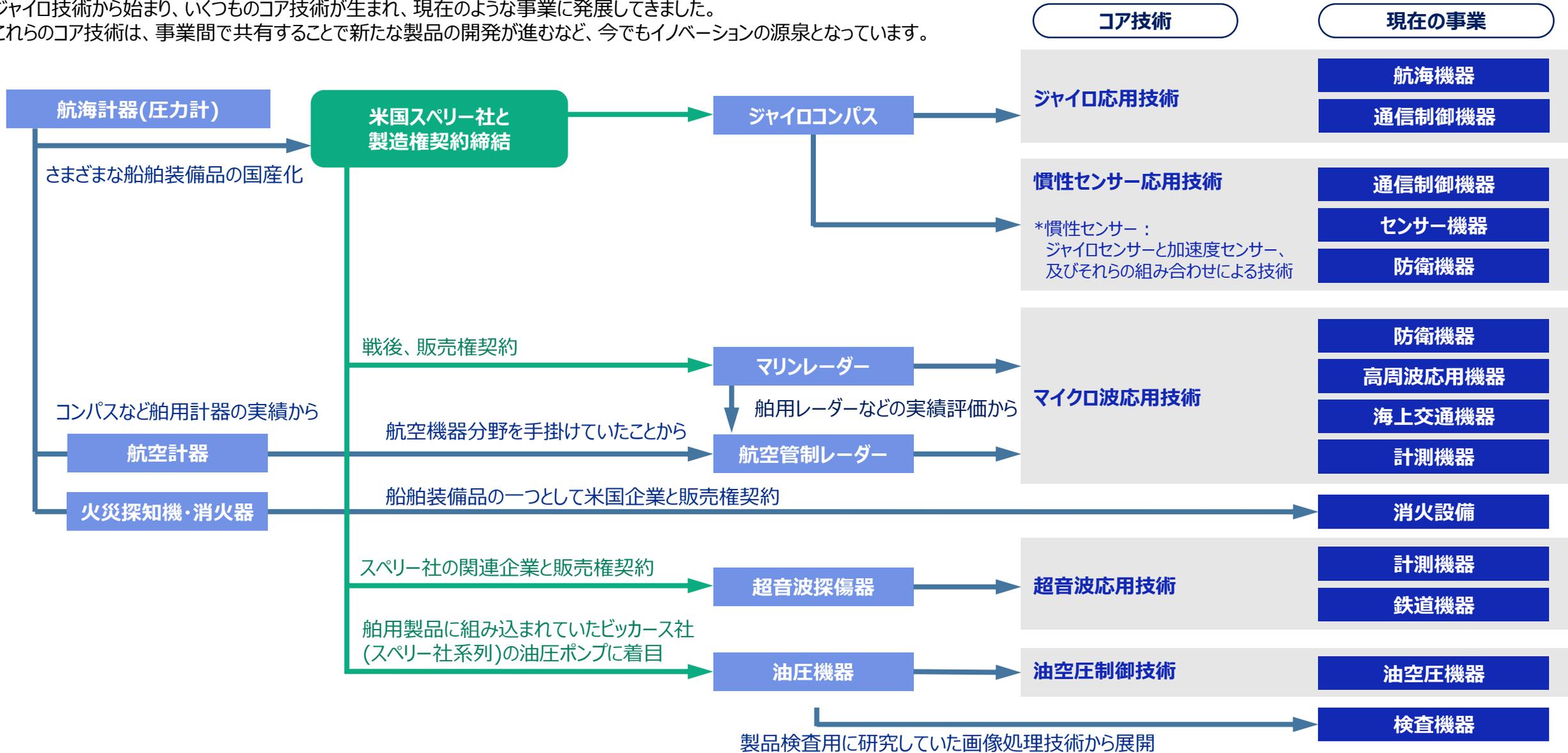
【2024年3月期】



セグメント (4+その他)	事業 (11)
船舶港湾機器事業	■ 航海機器
油空圧機器事業	■ 油空圧機器
流体機器事業	■ 計測機器 ■ 消火設備
防衛・通信機器事業	■ 防衛機器 ■ 海上交通機器 ■ センサー機器 ■ 高周波応用機器 (マイクロ波応用機器) ■ 通信制御機器
その他事業	■ 検査機器 ■ 鉄道機器

コア技術創出の歴史

東京計器グループの事業の源は、明治時代、航海計器の開発に遡ります。ジャイロ技術から始まり、いくつものコア技術が生まれ、現在のような事業に発展してきました。これらのコア技術は、事業間で共有することで新たな製品の開発が進むなど、今でもイノベーションの源泉となっています。



航海機器	船舶の安全航行、省エネ操船に貢献	業界シェア
<p>航海機器</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>自動操舵など 操縦系統を担う オートパイロット</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>方位を指し示す ジャイロコンパス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>センサー部に定期交換の 必要な可動部分が無い 光ファイバージャイロ (FOG)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>海図情報を表示するECDIS (電子海図情報表示装置)</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ 操船に必要な航海計器をトータルでラインナップし、グローバルに提供。 ■ 日本で最初にジャイロコンパスやオートパイロット、レーダーの生産を開始した、航海計器のパイオニア。 	<p>ジャイロコンパス・ オートパイロット</p> <p>世界の商船 6割以上</p> <p>国内内航船 8割以上</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「無人運航船の実現に向けた DFFASプロジェクト」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「ウインドチャレンジャー プロジェクト」</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ ジャイロコンパス、オートパイロットのトップ企業として、無人運航船開発プロジェクトやGHG排出削減に貢献する風力推進船プロジェクトに参画。 	

油空圧機器事業

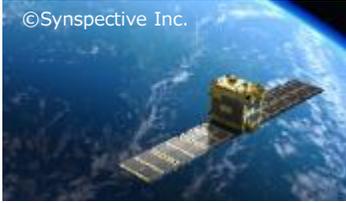
油空圧機器	ものづくり、インフラづくりの現場で活躍	業界シェア
<p>産業機械向け</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>一般産業機械に広く使われる 低騒音定容量形ベーンポンプ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>速度や圧力を自在に比例制御 する電磁切換弁</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>工作機械や一般産業機械の油圧動力源 として広く利用される小形パワーユニット</p> </div> </div> <p>■ 射出成形機、工作機械、自動車製造用ダイカストマシン等に、省エネ・制御性に優れた油空圧機器を提供。</p>	<p>国内プラスチック 射出成形機用 約4割</p>
<p>建設機械向け</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>建設機械に使用される 大容量・高速応答カートリッジ弁</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>建設機械用 電気ダイレクト制御ピストンポンプ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>建設機械向けディスプレイ</p> </div> </div> <p>■ 主にクレーン、高所作業車等の特装車向けに油圧製品と駆動を制御する電子機器を提供。</p>	
<p>水素エネルギー活用</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>水素ステーション向け水素圧縮装置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>分割モジュール式水素圧縮パッケージ</p> </div> </div> <p>■ 水素ステーション向け油圧式水素圧縮装置や分割モジュール式水素圧縮パッケージを提供。</p>	

計測機器	暮らしと人命を守る：水資源の管理や河川防災で生活の安全に貢献	業界シェア
<p>流量・水位 監視</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>上水、農業用水、工業用水の監視等に使用される超音波流量計</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高精度な流量監視・制御により、無駄のない水資源の有効活用を実現する高精度超音波流量計</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>食品工場や石油タンクなどのプラントでも活躍する電波レベル計</p> </div> </div> <p>■ 超音波流量計を世界で初めて実用化したパイオニア。 ■ 超音波流量計は、上下水道や農業用水配管網の流量監視で活躍。</p>	<p>国内上下水道、農業用水向け 6割以上</p>
<p>国土防災</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>河川の水位上昇をいち早く知らせる危機管理型水位計</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>下水がマンホールから溢れ出ることによる都市水害の危険を知らせる溢水対策水位計</p> </div> </div> <p>■ 電波レベル計を利用したシステムで、相次ぐ河川氾濫や都市水害から人命を守る。</p>	
<p>消火設備</p>	<p style="text-align: center;">火災から守る：ガス系消火設備が水濡れ厳禁の施設で活躍</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>水・泡消火が適さない印刷機械などを有する工場施設、オフィスビル、美術館、博物館、立体駐車場などで活躍するガス系消火設備</p> </div> </div> <p>■ 日本で初めて不活性ガス消火設備を手掛けて以来、各種ガス系消火設備で暮らしの安全に貢献。</p>	

防衛・通信機器事業

防衛機器	国防に貢献： マイクロ波応用技術や慣性センサー技術が強み	業界シェア
 <p>◀ 写真提供： イカロス出版/赤塚聡</p>     <p>航空機を取り巻く電波を瞬時に分析し、危険なレーダー照射などの警報を発するレーダー警戒装置</p> <p>GPSなどを利用した方位測定ができない潜水艦などに搭載される高精度のリングレーザージャイロを用いた慣性航法装置</p> <p>航空機の高度、速度などを計算する対気諸元計算装置（ADC）ブルーインパルス機体にも搭載</p> <p>■ 防衛市場向けの航空機搭載用電子機器や艦艇向け航法装置などの開発・生産・修理保守。</p>		
海上交通機器	船の安全航行に貢献：“海の管制塔”ともいえる海上交通システムを提供	
 <p>東京湾「海ほたる」に設置された海上監視レーダー</p>	 <p>全国7か所の港湾に設置された海上交通センターの管制業務を担うVTSシステム</p> <p>*1 AIS：Automatic Identification System 船舶間や船舶と航行援助施設などとの間で情報交換を行うシステム</p> <p>*2 VTS：Vessel Traffic Services 船舶通航業務</p> <p>■ 混雑する海上交通路の管制業務に必要な、「海上監視レーダー」や「AIS*1情報管理装置」といったVTS*2システムを提供。</p> <p>■ 欧州の湾岸や河川向けにもVTS用レーダーを納入。</p>	<p>全国海上交通センターのVTSシステム</p> <p>100%</p>

防衛・通信機器事業

センサー機器	慣性センサーや制御技術の組み合わせでスマート農業や防災システムに貢献	業界シェア
 <p>震度測定に不可欠な地震加速度計</p>	 <p>農作業の負担軽減のための農業機械向け直進自動操舵補助装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ジャイロ技術、慣性センサー、独自のソフトウェア技術が結集したトラクタ直進自動操舵補助装置でスマート農業を推進。 ■ 気象庁向け地震計に使用される加速度計で国土防災に貢献。 	<p>気象庁向け地震計用加速度計 約8割</p>
高周波応用機器	マイクロ波応用技術を駆使し、半導体製造装置部品や宇宙ビジネスなどの先進産業に参入	
 <p>次世代半導体の製造装置などに使用されるソリッドステートマイクロ波電源</p>	 <p>©Synspective Inc. マイクロ波増幅器が搭載された観測衛星（SAR衛星）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ソリッドステートマイクロ波電源を半導体製造装置に搭載することで、半導体の微細化を実現。 ■ 観測衛星から地表に向けて発するレーダー信号を増幅させるマイクロ波増幅器を提供。 	
通信制御機器	ジャイロセンサー、加速度計、磁気方位センサーなどの技術を放送品質向上に活用	
 <p>ヘリコプターの位置と姿勢方位を絶えず把握のうえ、中継アンテナを常に受信局に向けるよう制御し、途切れなく映像を伝送するアンテナ自動指向装置</p>	 <p>放送局の報道ヘリや、国内の主要なマラソン・駅伝中継などで、中継車に搭載されるカメラ防振装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 放送局の報道ヘリや中継車に搭載された姿勢制御装置により、安定した映像送信を実現。 ■ 国内TV局の報道ヘリに搭載されているアンテナ自動指向装置により、空撮映像の確実な送信を実現。 	<p>国内TV局の報道ヘリに搭載されるアンテナ自動指向装置 9割以上</p>

その他事業（検査・鉄道）

検査機器	印刷の品質向上に貢献：高精度な画像処理技術で印刷や素材のトラブルを検出	業界シェア
 <p>印刷の不良率の削減と印刷品質の確保を実現する印刷品質検査装置</p>  <p>フィルム、不織布、金属箔などの無地素材の生産加工不良や異物混入などを検出する素材検査装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発のチップで、高速リアルタイム画像処理を実現。 ■ 印刷ミスや異物混入を自動で高速に探知し、作業効率向上や材料のムダ排除を促進。 		<p>業界シェア</p> <p>軟包材向けグラビア印刷機向け 国内トップシェア</p> <p>軟包材： プラスチックフィルム、紙、アルミ фольドールなどのような薄い柔軟性のある材料で構成されている包装材</p>
鉄道機器	鉄道の安全運行に貢献：超音波技術を鉄道保線に活用	
 <p>レール内部の傷に対し、超音波探傷による非破壊検査を行うレール探傷車</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ レール探傷器や分岐器検査装置などの測定機器及び保線役務で、鉄道保線業務を支える。 	 <p>複数種の軌道材料の状態を自動で検査・判定する軌道検査省力化システム</p>  <p>分岐器内のレールやクロッシングの摩耗量、軌道変位などを同時に測定できる分岐器検査装置</p>	<p>JR各社・国内民営鉄道向け 超音波レール探傷車 7割以上</p>

将来情報に係るご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先

東京計器株式会社 コーポレート・コミュニケーション室 早川

TEL 03-3730-7013

問合せフォーム https://www.tokyokeiki.jp/form/webform_ir.html

ホームページ <https://www.tokyokeiki.jp/>



株式会社シェアードリサーチによるアナリストレポートを公開しています。

日本語版 <https://sharedresearch.jp/ja/companies/7721>

英語版 <https://sharedresearch.jp/en/companies/7721>

本レポートは予告なく公開終了する場合がございます。